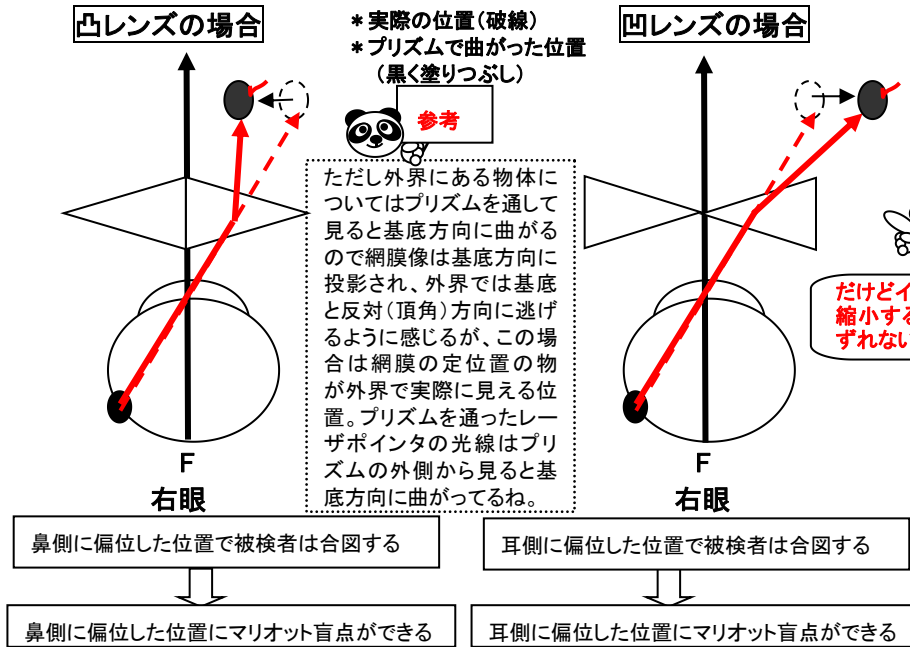


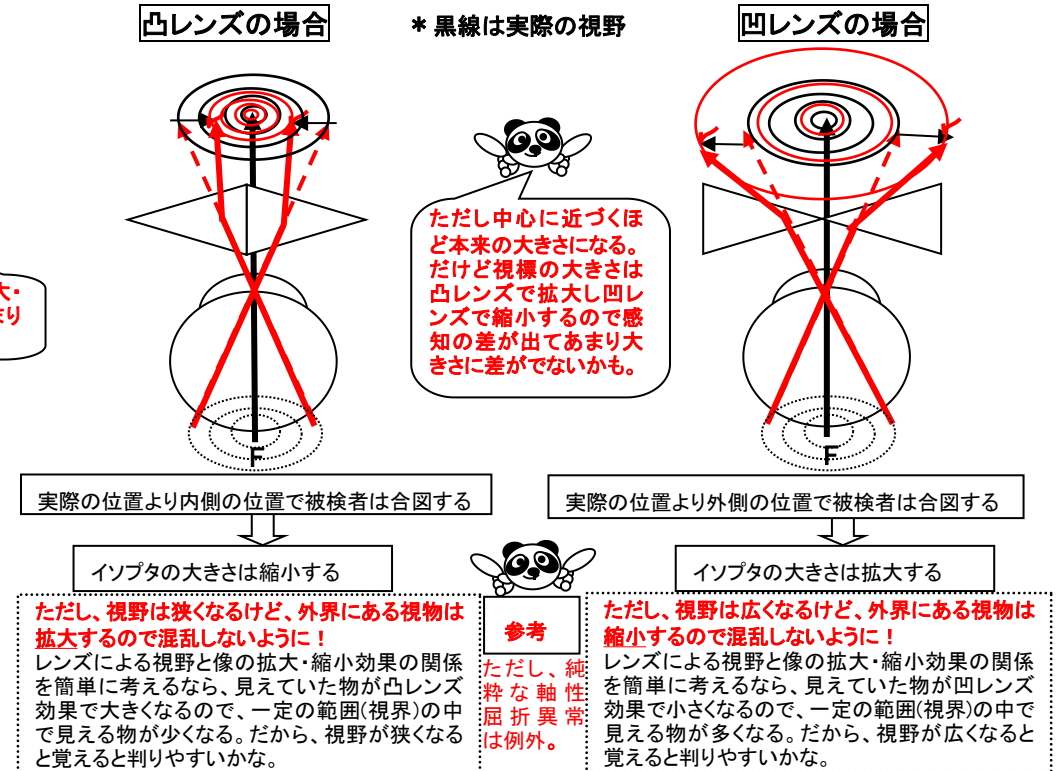
強度屈折異常によるレンズ装用での視野の変化

* 周辺位置なので全てのイソプタでプリズム効果が入る プリズムの進路は簡略化

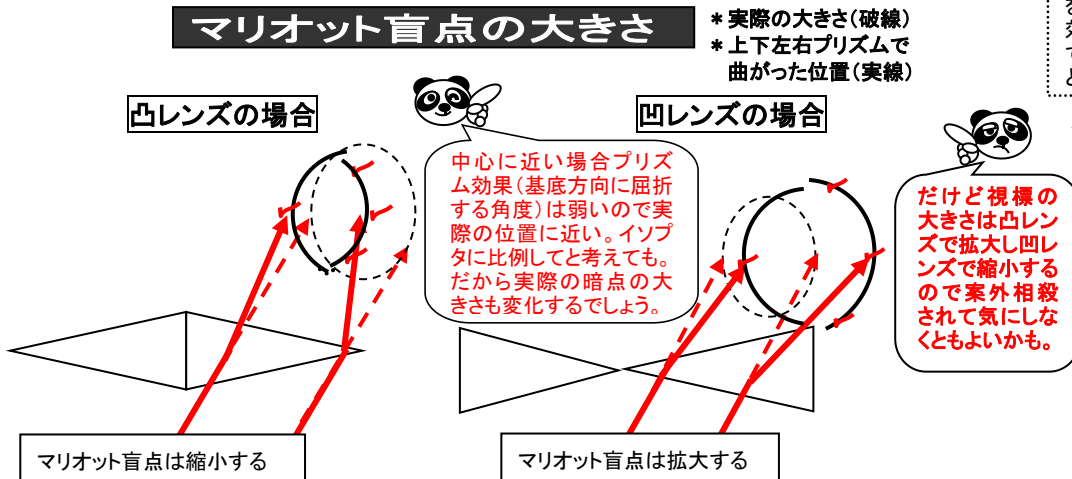
マリ奥特盲点の位置



30° 内側での視野の広さ



マリ奥特盲点の大きさ



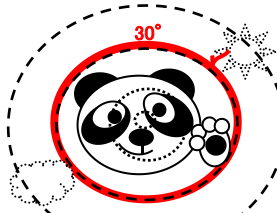
極端例) 凸レンズ

裸眼のイソプタを基準として
20° の範囲しか入らない



視物が拡大する
パンダの顔も入らない
見える範囲は狭い⇒視野は狭い

裸眼で見た大きさ



凹レンズ

裸眼のイソプタを基準として
40° の範囲まで入る



視物が縮小する
パンダの顔以外の物も入る
見える範囲は広い⇒視野は広い

光学はややこしい...

ただ今、混乱中。

レンズによる視野の変化は結構相殺されることが多いのかも。レンズの色々な副次効果を総合的にみても案外相殺されているよね！でも基準をどこにおくかによって混乱するなあー。

検査用紙とドームの視標の位置はリンクしているので、裸眼の 30° の中に入るイソプタ(範囲)と比較して凹レンズだと 30° 以上の範囲となり、凸レンズだとその反対となる。凹レンズだと太陽の位置で、もうすでに合図し、凸レンズではパンダの眼の位置まで合図しない。だから凹レンズだと視野が拡大し、凸レンズでは視野が狭くなる。これにより、凹レンズだと太陽(暗点)を再度見つけた、凸レンズだとパンダの耳を見逃したりしてしまう場合がある。この図だとイソプタが凹で縮小し凸で拡大しているようになるが、裸眼のイソプタを基準としているので、凹凸レンズを装用した実際のイソプタではなく、この様な図示となる。